

栗原市



かねた ひらふ 金田火伏せまつりは、仙台藩宿老^{しゅうろう}だった遠藤家が居住していた一迫金田地域の伝統行事で、その始まりは藩政時代にまでさかのぼります。旧暦2月の最初の午の日^{うま}である初午^{はつうま}の日が、2か7の日に当たると「今年は火早い年だ」とされ、地区ごとに山車を競い防火を呼びかけました。戦後、一度途絶えましたが、昭和44年春に地域の青年たちによって復活しました。その後は地域住民総出の祭りとして4年に一度、4月の第2日曜日に行われるようになりました。



祭りの前日には祈願祭、当日には消防演習と街頭パレードが行われます。祈願祭では、洞林寺、秋葉神社に無災害を願い、神楽^{かぐら}と鹿踊^{ししおどり}が奉納されます。街頭パレードでは防火を願う山車行列が運行され、川北神楽や川口ばやし手踊り、清水目鹿踊^{すずめししおどり}など地域の郷土芸能や武者行列が一堂にそろって街を練り歩きます。また、沿道ではお神酒^{みき}も振る舞われ、春の訪れを祝います。